

特別成果加算(無罪等)請求書 <被告人用> (書式4-A① 2025.7月版)

弁護士 _____ (登録番号 _____) 提出日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

事件番号: _____ 年(_____)第 _____ 号 被告人名: _____ (

下記の事由がありましたので、特別成果加算(無罪等)報酬を請求します。
 判決書の写しなど、公訴事実又は刑の減免事由の不存在を争ったこと
 (少年法第55条に基づく家庭裁判所への移送を主張したことを含む。)
 を疎明する資料を添付します。

・該当する口にチェック

全部 無罪	<input type="checkbox"/> 公訴事実を争った <input type="checkbox"/> 判決主文において公訴事実の全部について無罪が言い渡された。
一部 無罪	<input type="checkbox"/> 公訴事実を争った <input type="checkbox"/> 判決主文において公訴事実の一部について無罪が言い渡された。 ※公訴事実中、無罪となった部分を記載。
移送	<input type="checkbox"/> 少年法第55条に基づく家庭裁判所への移送決定がされた。
縮小 認定等	<input type="checkbox"/> 下記①～④について公訴事実(刑の減免事由)を争い、争点になった。 (争った時期や内容等、詳細を以下に記載) 詳細 (_____)
	<input type="checkbox"/> ①法定刑に死刑がある罪に係る公訴事実に対して、判決で法定刑に死刑がない罪に係る犯罪事実が認定された。
	<input type="checkbox"/> ②法定刑が死刑又は無期拘禁刑(※)のみである罪に係る公訴事実に対して、判決でそれ以外の罪に係る犯罪事実が認定された。 (※)2025.6.1より前にした行為に係る罪について「無期の懲役若しくは禁錮」とする場合を含む。
	<input type="checkbox"/> ③法定刑に死刑又は無期若しくは短期1年以上の拘禁刑(※)の定めがある罪に係る公訴事実に対して、判決で、それ以外の罪に係る犯罪事実が認定された。 (※)2025.6.1より前にした行為に係る罪について「無期若しくは短期1年以上の懲役若しくは禁錮」とする場合を含む。
	<input type="checkbox"/> ④判決理由において刑の減免事由に該当する事実が認められ、法令の適用において刑の減軽がされた。/刑の免除が言い渡された。 ※「刑の減免事由」とは、法律上の刑の減軽又は免除がなされる事由をいう。酌量減軽のみがなされた場合は加算対象とはならない。
	【判決理由において認められた刑の減免事由をチェック】 <input type="checkbox"/> 心神耗弱 <input type="checkbox"/> 自首 <input type="checkbox"/> 従犯 <input type="checkbox"/> 過剰防衛 <input type="checkbox"/> 過剰避難 <input type="checkbox"/> 中止未遂 <input type="checkbox"/> 障害未遂 <input type="checkbox"/> 法律の不知 <input type="checkbox"/> その他(_____)